

第236回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成30年3月12日(月) 11:00~12:20

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 6人  
出席委員数 5人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)  
君島 理恵 (副委員長)  
青木 敬信  
早川 富美子  
小笠原 伸

(2) 欠席委員の氏名 篠田 裕次

(3) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)  
佐藤 望 (放送部長)  
古寺 雄史 (総務部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

2月25日(日曜日)夜7時から放送した「イチゴと王子のバレンタインライブ」について、試聴と意見交換をおこなった。

事業者：

去る2月11日に、お菓子の城 那須ハートランドで、パーソナリティ・須賀由美子による「星の王子さま」の朗読と、バイオリニスト NAOTO さんのライブのスペシャルイベントを、100組 200名様を無料招待しておこないました。

この放送はその模様を収録し、後日、特別番組として放送したものです。

## 【 番 組 の 試 聴 】

委員：

イベントを開催したのがバレンタインデー直前の休日ということで、時節柄に合った旬な内容だ。特番としても、須賀さんの落ち着いた話し方には好感が持てる。軽快なオープニングテーマも相まって、番組冒頭から心地よく聴き入ることが出来た。

委員：

須賀さんが朗読した「星の王子さま」はポピュラーな作品ではあるものの、その内容は比較的難しい作品だ。その作品を須賀さんは、一人で声を使い分けながら、話のテンポを調節して丁寧に伝えようとしていた。

委員：

朗読とバイオリン演奏が混在した場面では、バイオリンの音で朗読の声が消されてしまい、話の内容がとても聞き取りにくくなってしまった。須賀さんも、そこから急に声のトーンが固くなってしまった。

事業者：

ケルティングハーブの音は朗読との相性が良かったが、バイオリンは元々の出音が大きく、会場の広さ的にも調整をしきれなかった。

委員：

朗読を聞かせる所と、バイオリンをきかせる所のメリハリに完全に失敗してしまっていた。また、NAOTOさんの演奏が終わった直後、観客の拍手がまばらであったことに違和感があった。その微妙な空気感が漂う中に、MCの須賀さんが高めのテンションで再登場したことで、さらに、場のミスマッチ感が広がってしまった。

委員：

NAOTOさんの演奏は格調が高く、トークも楽しいのだが、どことなくあっさりしていて、手慣れ過ぎているようにも感じた。

委員：

須賀さんが、この特番のエンディングを「バイバイ」という言葉で締めていたが、番組内容から鑑みて、別の言葉の方が良かったと思う。

委員：

現在、朗読のあるレギュラー番組は編成しているのか？

事業者：

以前はレギュラー番組でも編成をしていたが、現在は放送していない。ただ、読み聞かせのイベントなどでは、時折、おこなっている。

委員：

朗読は、「良質な文字表現を音で伝える」というラジオ放送ならではのコンテンツといえ、今後、通常番組でも積極的に編成してほしい。

(以上)

(2) その他  
なし

(3) 次回開催日程について  
次回の開催を4月9日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日  
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日  
(1) 放送 3月25日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内  
(2) 書面 本社事務所に備え置き  
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項  
なし